



A 試合会場レポート

試合番号 202

開催日 2017/01/07

第69回全日本バレーボール高等学校選手権大会男子 会場：東京体育館

観客数： 8,000	開始時間： 17:25	終了時間： 18:43	試合時間： 01:18	主審： 鈴木 和彦	副審： 飯島 毅
------------	-------------	-------------	-------------	-----------	----------

東亜学園高等学校

監督：佐藤 俊博
コーチ：竹内 卓郎

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

3	25	第1セット 【 00:22 】	22	0
	25	第2セット 【 00:22 】	20	
	28	第3セット 【 00:28 】	26	
		第4セット 【 】		
		第5セット 【 】		

ポイント 【】内はセット時間 ポイント
- -
()内は交代選手

高川学園高等学校

監督：有吉 健二
コーチ：有吉 映美

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

<監督コメント>	

25	中道	内藤	第1セット	三輪	持田	22
	()	()		()	(井原)	
	神戸	上林		名倉	山田	
(白井)	()	()	()	()		
竹沢	小田島	西村(信)	島津			
(栗田)	()	()	(西村(哉))			
リベロ：	大吉		リベロ：	難波 長田		
25	神戸	中道	第2セット	三輪	持田	20
	()	()		()	()	
	竹沢	内藤		名倉	山田	
(栗田)	()	()	()	()		
小田島	上林	西村(信)	島津			
(中村)	()	()	(村岡)			
リベロ：	大吉		リベロ：	難波 長田		
28	中道	内藤	第3セット	三輪	持田	26
	()	()		()	()	
	神戸	上林		名倉	山田	
(大竹)	()	()	()	()		
竹沢	小田島	西村(信)	島津			
(中村)	(栗田)	()	()			
リベロ：	大吉		リベロ：	難波 長田		
	()	()	第4セット	()	()	
()	()	()		()	()	
()	()	()		()	()	
リベロ：			リベロ：			
	()	()	第5セット	()	()	
()	()	()		()	()	
()	()	()		()	()	
リベロ：			リベロ：			

<監督コメント>	

<要約レポート>

ノーシードから強豪を撃破して勝ち上がったチーム同士の対戦となった準決勝。
 第1セット、中盤まで両チームとも多彩なトスワークで得点し、互いに譲らない展開となった。中盤、東亜学園は小田島、内藤、中道のスパイクで得点を重ね、リードする。対する高川学園も、西村(信)を中心にスパイクで点数を詰めてはあったが、最後は東亜学園の中道のスパイクでセットを先取する。
 第2セット、安定したレセプションから互いに得点を重ねていく展開となった。高川学園は持田のスパイク、三輪のブロックなどで徐々に流れをつかむか見え始めた。しかし、東亜学園はリベロ大吉を中心とした好レープで逆に流れをつかみ、中道の緩急を織り交ぜたスパイクで、徐々にリードを広げていく。ついていきたい高川学園は、センターの三輪と島津の速攻などで追いつくが、内藤や竹沢の速攻で点を重ねていく東亜学園が主導権を離さずこのセットも連取した。
 第3セット、高川学園は三輪や島津のブロックと速攻が効果的に決まり主導権を握る。山田や持田のサイドアタッカーも機能し、ファーストテクニカルタイムアウトを奪取した。対する東亜学園は、内藤や小田島で点を詰めるが、高川学園のキャプテン西村(信)や持田のスパイクでリードを保つ。東亜学園はメンバーチェンジで守備を固め、攻撃に繋げ、竹沢のブロックでついに同点に追いついた。その後は互いに持ち味を出し切り、デュースまでもつれ込んだセットとなったが、粘りを見せた東亜学園が大事なこのセットを勝ち取り、決勝に駒を進めることが決まった。

作成者：松延 亮一